

學者が忘れてゐる星座 (4)

Forgotten Constellations.

山 本 — 清 Issei Yamamoto.

Dhalim 駝鳥

暗黒時代のアラビヤ文化の頃から、エリダン河の星座には、駝鳥とか、駝鳥の巢とか呼ばれる星象が知られてゐる。尤も之には多くの説があつて、確かなことは言ひかねるが、エリダン河の南部、テ星からア星（アケルナ1）あたりまでの間に四等星が五つ六つ並んでゐる。この邊を、アラビヤ以來、人々は“駝鳥”と呼んでゐる。それから又、このエリダン河の北東部に、“駝鳥の巢”といふ小さい星座が認められた。但し、これについては、ベ星が其れだといふ人があり、又、オミ星あたりが其れだと言ふ人があつて、説が必ずしも一致しない。第一オミ星は、アラビヤ時代の初期に“駝鳥の卵”と呼ばれたといひ傳へがあるから、とにかく、このあたりに“巢”があるに違ひない。甚だ古い言ひ傳へなので、それだけ未確定であるが、しかし、古いだけそれだけ、一種の興味が湧く氣がする。

Beid 卵

エリダン河の北部を、昔のアラビヤ人は“駝鳥”と呼んだことは前述の通りであるが、殊にベ星からオミ星まであたりは“駝鳥の巢”で、オミ星は特に純白な光を放つてゐるものだから、これを駝鳥の“卵”と呼んだ。

Antinoüs アンティヌイス

夏の頭上に現はれる鷲座は、正式には *Aquila et Antinoüs* (鷲とアンティヌイス) と呼ばれる。これは、第二世紀のロマ皇帝ハドリヤンが、其の愛撫した近侍アンティヌイスの死を悼んで、作つたものだと言ひ傳へられ、トレミは鷲座の南方にある若干の形外星を以つて此の星座に當てたものであるが、アラビヤの天文家たちは、余り重要視しなかつた。しかし、近世に至つて、メルカトア、チュニコ、ケブラ、ロンゴモンタヌス、ヘベリウス、フラムステイド等が此の星座を用ゐ、ボーデも之を圖中に記載してゐる。しかるに、アルゲランダに至つて、之を省略し、鷲座の中に取り入れて了つた。

第十七世紀初めのバイエルは、此の星座に *Ganymede* ガニメデといふ名を與へた。之は、ギリシヤ神話にあるジュピタ大神の近侍者であるガニメデを星座にしたもので、このガニメデは地上から神の使者たる鷲が天上へ拉し去つたといふ神話に合ふやうに、鷲の傍に作つた星座であるのだが、しかしバイエルの名(ガニメデ)は多くの天文家に採用されず、今でも、“鷲とアンティヌイス”

と呼ばれてゐる。ところが、星座の繪を見ると、このアンティヌースが、やはり、鷺に連れ行かれるガメデの姿に畫かれてあるから、面白い。

このアンティヌース座は、鷺座のデ、エ、テの3星が形作つてゐる一直線と、それから以南の星から出来てゐるもので、廣さは可なり廣いが、星は三等星が3個、他は四等以下で、あまり目立たない。しかし、上述の如く、昔から學者たちが可なり重要視した星座であつた。デ、テ、カ、ラの4つの星によつて、有名な“アンティヌースの菱形”が作られてある。

Quadra Euclides ユークリッドの方角定規

これは、初夏の南天にあつて、蝸座の西南隣に位置を占めてゐる定規座の別名である。命名者は不明である。“定規”といふ名に因むために、ギリシヤの偉大なる幾何學者ユークリッドの名を此所に使つたものと見える。決して悪くない命名法である。

Quadra はスクェア (Square) のことで、決して Quadrans 四分儀のことではない。

Norma Nilotika ナイル河の水量計

水瓶座の別名で、ブリトが命名したものである。エジプトのナイル河は其の國土の母と言はれ、昔からナイル河の水量の増減といふことが、日常生活上、非常に重要なものであつたので、數千年の昔からアスワン市の近くのエレフンティン島や、カイロ市の近くには、水量を測定する水量計が設備されてあつた。これを、水に因縁の深い水瓶座に命名したものである。しかし、現在は、この名は殆んど用ひられてゐない。

Regula 分度器

定規座は、正式には Norma et Regula (定規と分度器) と呼ばれる。製圖の器具を表はすものである。元々非常に大きい星座で、祭壇座から狼座あたりまでの形外星を多く含んでゐたのだが、第十八世紀の中頃、ラカイユが現在のやうな形に區劃したものであつた。

Capus Medusae メドゥサの首

ペルセウスは、ギリシヤ神話に有名な勇士で、魔女ゴルゴン族の退治に行き、メドゥサの首を持つて凱旋した話は、どこの神話書にも書いてある。星座では、ペルセウスの形は秋の頭上に、銀河の一部として現はれてゐるが、ペ星(アルゴル)附近の小さい部分は、星座の圖に、ペルセウスの左手に携へられてゐるメドゥサの恐ろしい首が畫かれてゐる。故に、このあたりを“メドゥサの首”として、一つの獨立した星座に取り扱ふ人もある。

Anser 鷺鳥

狐座は、正式には Vulpecula cum Anser (狐と鷺鳥) であつて、今は一つ

の星座となつてゐるが、昔しから、人によつて、之を二つの星座と見る人もないではない。ヘベリウスが作つたもので、1 番星から 8 番星 (α 星) までに至る小區域を鷲鳥とし、他の部分を狐としたものである。

Cynocephalus 犬猿

ラランドの傳へるところに據れば、學曆紀元前 900 年前のエジプトの天文家ペトシスの作つた天球儀には、今の祭壇座のあたりに“いぬざる”の星座が畫かれてあるといふ。“犬猿”とは“犬”と“猿”との意味ではない。犬のやうな頭部を有つた猿のことである。

Equus Neptunius ネプティン神の馬

昔時、アフリカに住んだ人々は、アルゴ船の星座あたりを、馬の形と見た。トレミに據れば、アフリカの東北部にあるガルダフィ岬の南にあるアザニヤの住人は此れを“馬の星座”とした。そこで、ギリシヤ人は、これに習つて、海神ネプティンの神馬の形を此の低い南の空に想像したと傳へられてゐる。

Scutulum 小楯

昔のローマ人等はアルゴ船の星座のイ、エプ、デ、カの星々を小型の楯の形と考へたといふ言ひ傳へがある。このあたりは、南方へ旅行する人々が、今でも屢々“十字架”の星座と見誤る所であつて、多少傾いてはゐるが、明るい四つの星が歪んだ四邊形を作つてゐるやうに見える。

Gallus 牡鷄

第十七世紀の初めの頃、アルゴ船の星座の北部で、大犬座の背部に當る所に、バルチウスは“牡鷄”といふ星座を作つた。しかし、之は殆んど誰も見逃してゐる。

Gam 彎刀

ブラウンの傳ふところによれば、太古、エッフラト河の岸邊に住んでゐたバビロニヤ人たちは、羊座のア、ベ、ガの 3 星と、魚座のア、オミ兩星などとを、つなぎ合はせて、“彎曲した大刀”の形に見た。そして、この刀の刃は、羊座の 3 座によつて代表されてゐるといふ。なるほど、その形を想像して、天の星々を眺めて見ると、肯かれるものがある。

Aselli 驢馬

蟹座の中央にある有名な散開星團“プレセペ”は、昔しから俗間に於いて“飼ひ馬桶”と呼ばれ、又、それと同時に、プレセペの東側の南北にある 2 つの四等星(ガ星とデ星)は共に一疋づつの驢馬と呼ばれてゐる。北のガ星は Asellus Borealis 北驢、南のデ星は Asellus Australis 南驢である。しかし、之は誰が名づけたものであるか、不明である。只、非常に古いもので、余りに廣く此の名が普及してゐて、作者は問題でない。

{ Asterion アステリオン
Chara カイラ

ヘベリウスが作った獵犬座は、2 足の犬が勇ましく大熊に飛びかゝつてゐる形であるが、星座の北半の微光星ばかりを集めて“アステリオン犬”が作られ、南半のアベ兩星などによつてカイラ犬が作られてゐる。殊にベ星はカイラ犬の首の部に當るので、此の星も亦“カイラ”と呼ばれる。

Testudo 亀

琴の星座は、昔、亀の甲で作つた琴であるので、屢々“龜形”の星座と呼ばれることがある。しかし、尙、そのほかに、鯨座の北部の20番星あたりを、スミスは“龜”の星座と名づけた。淋しい所で、何れの星座からも取り残されたやうな天空である。星は5等星以下のものばかりである。

“Fahne” 旗

ドイツ民族の古い傳説によれば、獅子座と乙女座との兩方に跨つて“旗”をひるがしてゐるやうな形の星座が考へられてゐる。これは第15世紀の頃には立派に記録されてゐるが、或る學者は、バビロニヤから傳はつて來た星形であるとも言つてゐる。

Urbarrā ハイエナ

ペガソス座の有名な正方形の南部、即ちア、ガ、ゼの3星を含んでバビロニヤの古い時代から、こゝに猛獸“ハイエナ”の星座が作られてあつたとブラウンは書いてゐる。或は、これは神馬ペガソスの初代の形であつたのかも知れない。

Gazelle 羚羊 (かもしか)

アラビヤ人の傳へるところによれば、北斗七星と獅子座との間に一足の“かもしか”が居る。この羚羊は、獅子の姿に恐怖して、跳んで逃げたが、其の足あとが、大熊座のイとカ、ラとム、ヌとクシの3對の星となつて現はれてゐるのだといふ。甚だ面白い譚である。

この3對の星は、互ひに可なり遠く離れてゐるけれど、其の配列の間隔や方向が似てゐるため、昔から誰にも目につき易いものらしく、支那でも之は“三臺”として一纏めになつてゐるし、又、ギリシヤの“大熊座”としても、其の熊の足に當つてゐる。

Aquarius Minor 小水瓶

これはラランドの書物に一言してあるだけで、他に何も記録が無いから、全く不明である。只、“水瓶”の近くの小さい星座らしいことは考へられる。

“Tent” テント

水瓶座の北部で、赤道に跨つてゐる有名な星群、ガ、ゼ、ビ、エ1あたりをアラビヤ人はテントと呼んでゐる。理由は良くは分らないが、この星座が東天か

ら現はれて来る頃は皆テントの蟄居から出て来る時であると考へる人もある。

Pharus 燈臺

祭壇座の別名である。祭壇といふものは、屢々神殿の高塔上に設けられるので、遠方からもよく見え、夜の目じるしとして役に立つものである。

Arma 武器

センタウル座の ϵ 1 星とカ星とを結ぶ一直線は、センタウルが狼を刺してゐる槍である。クロチウスは之れを“武器”と呼んだ。

× × × × ×

これでラテン系統の星座（多少は其れ以外のものも書いたが）を一先づ切り上げる。ほかにアラビヤ系の星座やインド、支那の星座は澤山あるが、本稿の目的は、現在、學俗界に用ひられてゐるラテン名の星座の補遺のつもりであつたのだから、ほかのものは、又、別に改めて書くにとする。(1942—10—15)

問 答

問：[M.T.生] (1) 天界256號339頁のラヂオ鏡とは、どういふ意味ですか？

(2) 魚眼レンズとは如何なるレンズですか？ 用途は？ 日本に何個ありますか？

(3) 大宇宙は有限にて無限であると或る本にありましたが、其の意味は？

(4) 肉眼で見るよりも、5~6種の望遠鏡で見る方が澤山見えますが、しかし、空の明るさも増すわけですから、結局、星の数は増さない筈だのに思ひます。如何でせう？

答：[P.Y.生] (1) 光が鏡で反射するやうに、ラヂオの電波が反射する層だから此れをラヂオ鏡と呼ぶのです。(序でに、あの文の第3行の“層の”は“その”の誤植です)

(2) 地平から地平まで全天空が同時に見えるので“魚眼レンズ”と言ひます。水中の魚は、空中から水中への光の屈折により、全天空を一時に見得るからです。此のレンズは氣象家が全天空の雲量を撮影する時などに用ゐますが、一般の全景寫眞の撮影にも用ゐられますし、又、天文上にも用途はあります。日本に幾個あるか分かりませんが、數十個はあるでせう。天界129號に澤山寫眞があります。

(3) 大宇宙は人の腦裡で考へる場合は無限ですが、天體觀測の實際や、相對論などによる理論からは限りがあります。

(4) 空の明るさは望遠鏡の倍率を増せば暗くなります。見える星の数は、倍率や口径を増せば増します。星の像は一點ですから、倍率に關係なく、只、口径と共に光を増します。